

金田音頭の歌詞を探していたところ、下記の要覧に記載されていました。数年前、金田小学校の音楽の先生に記譜をうけ、盆踊りの節、踊りと共に紹介されました。

音頭というと、明るく、元気な曲が多いのですが、金田音頭はどこか哀愁深さを覚えたことを記憶しています。 金田音頭の歌詞を記します。

「いこいの一とき」

霊峰富士の頂を目前にあをぎ 見渡すかぎりの田園に乙女のうた聲が何時とはなしにひびく我が金田村 花の四月樹齢数十年を経る櫻花の下に 村人の畑仕事はいよいよその手を早めます この頃になると各部落の祭太鼓が遠く麦畑をこえて清流金目川にと消えていき 又八月の月が美しく照り蛙の泣き声が一しをはげしくなる頃 浴衣姿に装った娘にほほかむりの若衆が身振りも軽く輪を作り ふえや太鼓に何時とはなく誘われる老人 そして村人だけでなく近隣の人々までがこのメロディーに日増しに仲間入りをするのです 老若男女とは全くこのことか全村をあげての盆踊りに村人はしばしの楽しみを感じつつ明日の農業にいそしむのです

金田音頭

- 一 金田よいとこ 櫻が咲いて
富士ははるかに 西の空 西の空
雪の頂き 朝日が光る
日が光かる 日が光かる
- 二 金田よいとこ 緑のそのに
早苗へ取る娘の 紅だすき 紅だすき
唄もはづめば 気もすがすがと
手もはずむ 手もはずむ
- 三 金田よいとこ 黄金の波に
皆な元気な 文化村 文化村
せいだす意気で 明るい村
それのばせ それのばせ
- 四 金田よいとこ 住みよいところ
老いも若きも 手をとって 手をとって
そろって行かうよ 足並みそろへ
國のため 國のため

「金田村政要覧表紙」



金田村政要覧には、平塚市に合併する前の金田村の概況が記されています。

その中に金田音頭があります。いつごろから唄われていたか時期は不明ですが、歌詞の中に「文化村」、「國のため」とありますので、戦前、戦後のことか判断が難しいです。

- 当時、金田村の戸数と人口は、293 戸、1,787 名 と記されます。
- 村議会は、定数 12 名、平均年齢 51 歳 『村役場は、村長以下男子 6 名、女子 4 名の職員と男女各 1 名の雇人の 12 名によって構成されている』
- 『学校は、戦災後復旧し小学校児童 251 名にて校長以下 7 名の職員と使丁 1 名…』
- 『新制中学校は金目・旭両村と合同による三カ村組合立金旭中学校を持っている』
- 『農家総戸数 219 戸』 { 村の総戸数の 74.7% で、純農村地区といえます }
- 『畜類：乳牛 (39)、馬 (11)、役牛 (138)、鶏 (1530)、豚 (70)、アンゴラ兎 (28)』
{ 馬、役牛は、運搬、農耕用として飼育され、役牛は、おとなしい赤毛の鮮牛の頭数が多かったと云われます }
- 『果樹栽培農家：柿 (22)、梨 (34)、桃 (8) 計 64 戸』、
- その他、保健衛生に関しては『40 歳前後の農業従事者への検査結果、側弯が非常に多い（工作中筋肉が伸びきったり、縮みきったりしている為、血液の循環が悪くなる）働き方を合理化する、即ちリクリエーションを取り混ぜる』必要がある。
内科的診断の結果は『トラホーム・痔・胃腸病が多い（不摂生な生活が原因）規則正しい生活、平均的な栄養摂取が最も涵養』と、記されています。
- { 無医村であった金田村に、村長や助役の努力をもって、昭和 29 年に診療所が新設されました。若い先生による、診察、治療に合わせ、全村民の健康診断・調査・指導などが実施されました。健康改善や増進を考慮し、バレーボールが推奨され、村の特色となったのはこの時期でした }